



大学近隣の風景写真(奈良女子大学メールマガジン80号より抜粋)

もうすぐ年末です。平成19年度の府省研究開発支援制度での支援規模についても確定の知らせが順次入ってくる頃です。申請フォーマットなどはおおむね昨年度と同じものが多いため、昨年度実績をもとに準備してみられてはいかがでしょうか。また来年度は「地域資源活用研究開発事業(通称:田舎コンソ)も新設されますので狙い目です!!(こちらの詳細はまだです)。

1. 各種公募情報 < 1 >

重点地域研究開発推進プログラム・シーズ発掘試験

独立行政法人科学技術振興機構 JST

本試験につきましては、JST独立行政法人科学技術振興機構より、研究者のプランを実証するための試験費としての応募も推奨されております。ちょっと検証実験を行いたいなどの申請につきましてもご相談ください。
(コーディネーター 藤野; 内線3734)

コーディネータ等が発掘した大学等の研究シーズを実用化に向けて育成

【支援規模】・・・200万円を上限とする 採択課題数は本日現在未定。

平成18年度実績は1008課題採択 / 5621課題(応募)

【募集期間】:平成19年1月15日(月)~平成19年3月30日(金)

【採択時期】・・・平成19年6月頃

コーディネータ等からの申請が必要

【選考基準】以下の評価基準について外部有識者等の評価に基づき総合的に判断されます。

新規性または独創性

提案課題の技術内容が、従来の技術と比較して、新規性または独創性があること。

実用化の可能性

研究成果の蓄積により、事業化や他の技術移転事業への展開など、実用化の可能性が見込まれること。

計画の妥当性

シーズの実用化に向けて、適切な試験研究実施計画(試験項目、試験内容、期待される効果等)であること。

【助成金額】研究期間中、上限200万円程度(1課題あたり、間接経費を含む)

【試験研究期間】委託研究契約締結日から、平成20年1月31日まで

2. 「研究紹介集2006」の原稿を産学CO.までご提出ください。

同様のタイトルにて前号のレターで原稿のお願いをさせていただきました。電子メールの送信または資料を事務所までご持参いただきました先生方もおられます。ありがとうございます。この冬季休業期間を利用して冊子、WEB用へのデータ変換を行いますのでまだご提出いただいていない先生方には、再度本紙面をお借りしてご協力いただけますようお願い申し上げます。校正確認は年明けにさせていただきます。

1, 2, 3冊目ともに全く同じ研究シートでご提出いただいております方につきましては、4冊目となります本誌には新規事項の追加などによりシートの改訂を切にお願いします。

研究シートご提出最終期限 2006年12月15日でした。1日でも早くお願いします。

研究シートご提出対象者 2007年3月15日に奈良女子大学に在籍されている教員。

研究シートご提出先 産学CO. (コーディネーター) 藤野千代 内線3734

c-fujino@cc.nara-wu.ac.jp コラボレーションセンター1階研究協力課事務所内

3. 産学官連携推進部門活動報告

地域の活性化に向け、「奈良経済同友会との懇談・交流会」を開催（10/2）

10月2日、本学コラボレーションセンターにおいて、奈良経済同友会と懇談・交流会を開催しました。この懇談・交流会は、奈良経済同友会と本学の連携を深め、地域の活性化に一層貢献することを目的に今回初めて開催されたものです。

懇談・交流会には、多数の方にご参加いただき（奈良経済同友会31名：本学29名）、奈良経済同友会 岡村代表幹事（岡村印刷工業株式会社取締役社長）及び本学久米学長の開会挨拶ののち、本学藤野産学官連携コーディネーターから本学における産学官連携の取り組み状況などの説明を行いました。

その後、理学部池原教授（理学部学部長）及び大学院人間文化研究科中山助教授による研究事例紹介を行いました。池原教授からは「新しい視点から生命の起源を考える」と題し、自身の研究内容である生命の起源を探る新しい仮説の紹介をさせていただきました。講演後、「是非に『奈良』で発案されたということを強調して欲しい。」と同友会の方からコメントをいただいております。

また、中山助教授からは「商店街の活性化、地域経済の活性化への大学の取り組み」をテーマに、本学学生と商店街関係者との協働で商店街の活性化に向け実施している様々な取り組みの紹介もいたしました。特に今年の正倉院展では、市内8つの商店街と美術館など多数の施設が参加してスタンプラリーやイベントなどを行いますが、本学も施設参加のみならずスタンプラリーの発案などに積極的に参加していることの紹介に関しては皆熱心に聞き入っておられました。

研究事例紹介ののち、会場を本学記念館へ移し、記念館1階展示室の見学と本学学生の演奏による百年ピアノの鑑賞を行いました。プログラムにはありませんでしたが、予定曲目の演奏の終了後、経済同友会の方がご起立にて拍手され「アンコール」の声がどこからともなく聞こえてきました。これに応え、学生もまたショパンの「雨だれ」を演奏いたしました。



理学部 教授 池原健二
「新しい視点から生命の起源を考える」



大学院 助教授 中山徹
「商店街の活性化、地域経済の活性化への大学の取り組み」



第4回研究フォーラム「奈良の文化資産とその発信 - 自然科学と人文科学の調和のとれた産学官連携へ - 」を開催（11/2）

11月2日、本学コラボレーションセンターにおいて、第4回研究フォーラム「奈良の文化資産とその発信 - 自然科学と人文科学の調和のとれた産学官連携へ - 」を本学及び（財）南都経済センターとの共催にて開催しました。

この研究フォーラムは、本学の研究内容を学外の皆様に知っていただくことと、「大学は敷居が高くて行く機会もない」といったご意見をお持ちの方々に来校いただける機会となるよう平成15年度より実施してきたものです。第4回目となります今回は、科学技術系の産学官連携が表立って先行しがちな一般的感覚のなかで、特にこの「奈良」というブランドの地にいればこそできる文化資産の発信について文学部の教員3名を学内講師として学外の方にその研究内容をご紹介させていただきました。



文学部 助教授 武藤康弘
「奈良にはこんな面白い祭があったのか！
～祭礼動画アーカイブの構築と情報発信」



文学部 助教授 寺岡伸悟
「つながりを育む特産物
～ある伝統菓の事例から～」



NHK奈良放送局 局長 森秀人氏
「外からみた奈良観光
～何を発信するのか～」



平城遷都1300年記念事業協会
総務部広報戦略課長 田中賢一氏
「平城遷都1300年記念事業
～西暦2010年、歴史文化の祭典を開催～」



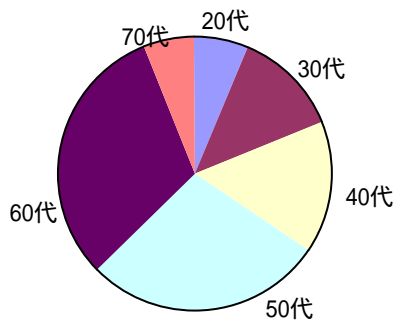
文学部 助教授 石崎研二
「GISで描く都市環境」



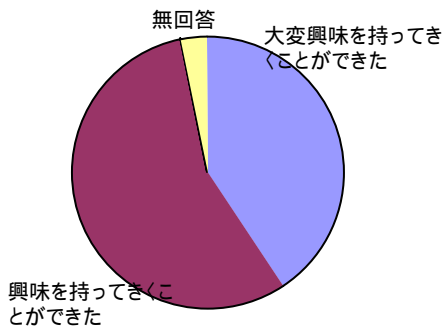
名刺交換会を兼ねたコーヒーブレイク

アンケート結果報告

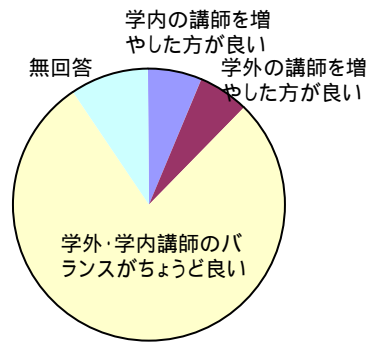
【参加者年齢層】



【講演内容について】



【講師バランスについて】



【研究フォーラムについての感想・意見】

ここだけの話が多く、本音をきけて興味を引かれた
 わかりやすく大変参考になりました
 大変興味深かった。「文化遺産」ではなく、「文化資産」としたところが良かった
 途中、コーヒーブレイクがあるなど、構成に工夫があり、良いと思う。
 文化が産業の根の部分でもあることが十分に理解できた。
 中身の濃いプログラムだった。こんな機会をもっと社会にPRする方法を講じればきっと役に立つと思う。
 非常におもしろい話でした
 地元の大学の先生の研究内容に触れることができるのでこれからもフォーラムを開催してほしい
 なかなか良い企画でした
 GISで描く都市環境がおもしろかった

誰を対象にしたフォーラムなのか、フォーラムの目的として誰に何を伝えるのかということを明確にすることが必要
 各講演者の持ち時間が短かったのが残念（数日に分けてもよいのでは）
 会場を探すのに苦労した
 文化資産の経済・社会へ期待される効果についてのコメントがないのが物足りなかった。
 コーヒーブレイクと名刺交換は一工夫が必要
 参加者の構成が分かればよかった

『元気企業ビジネスフェアNANTOに出展』（10/26-27）

10月26日と27日にマイドーム大阪で開かれました南都銀行主催の元気企業ビジネスフェアNANTOにブース出展しました。このフェアでの出展も回を重ねていますので、ブースに来られる企業の方も顔見知りとなった方が多く、楽しく対応させていただきました。今年は記念館の一般公開中に講堂で流れています「写真で見る大学案内」を会場で流しました。学内風景や近隣紹介での奈良の祭り風景に足を止めていただける方もおられました。



近畿経済産業局 上村良次産業部長のオープニング挨拶

『知財ビジネスマッチングフェア2006』に出展（11/30-12/1）

11月30日と12月1日の2日間にわたってインテックス大阪1号館で開かれました、『知財ビジネスマッチングフェア2006』へのブース出展を行いました。『知財ビジネスマッチングフェア2006』は、近畿知財戦略本部事業の一環として、知的財産ビジネスに関する産・学・官の交流の場を提供することによって、開放特許等の技術移転の促進、知的財産をもとにしたビジネスの活発化等、知的創造サイクルの要素である「活用」面における様々なビジネスの発展と、新たな技術開発、新規事業の創出に貢献することを目的に開催されるものです。2日間での総来場者数は10010人という主催者発表がありました。

本学ではバイオ・アグリゾーンに以下の3枚のパネルを出展するとともにブース会場では大学院人間文化研究科城教授（兼 社会連携センター 産学官連携推進部門長）の研究室から情報処理に関するパネル、及び平成18年度の文部科学省採択事業：現代的教育ニーズ取組支援プログラム【可視化コンテンツクリエイタ養成プログラム】と「魅力ある大学院教育」イニシアティブ【先端科学技術の芽を生み出す女性研究者育成 - 21世紀先端科学技術と基礎科学のインターフェースをめざして - 】についての紹介展示を行いました。

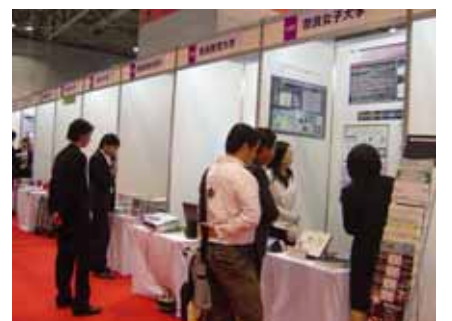
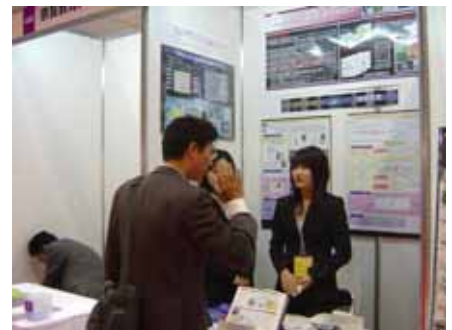
神経伝達物質合成酵素の制御機構 / 味覚機構【生活環境学部 植野洋志教授】

「食べることで健康を維持する」ことは21世紀の大きなテーマである。その為には、様々な食成分が生体組織にどのように作用するのかを詳細に検討する必要がある。当研究室では、神経伝達物質であるギャバとヒスタミンの合成酵素を大量に発現する酵母を作成したので、酵素を供給できる。香辛料などの天然物成分の酵素制御作用を見る事ができる。また、ギャバ合成酵素の味覚への関与を明らかにしており、新規味覚物質の開発を行える。

生活習慣病予防を目指した遺伝子プロモーター活性による評価【生活環境学部 井上裕康教授】

プロスタグランジン産生に関与する誘導型シクロオキシゲナーゼは、炎症、発癌などに関与することがわかり、その発現を抑制する物質の探索は生活習慣病予防につながると考えられる。同様に、核内受容体PPARのリガンドは既に高脂血症等の治療薬として使われている。我々は、これら遺伝子のプロモーター活性を細胞培養系を用いて評価するシステムを構築し、赤ワインに含まれるレスベラトロール、プロポリスに含まれるクリシン等を見出してきた。

葉酸欠乏ラットを用いたベタインの機能性の評価【生活環境学部 中田理恵子講師】
葉酸欠乏ラットをホモシステイン上昇モデルとして用いて、ベタインのホモシステイン上昇抑制効果を評価。ベタインは血漿ホモシステイン濃度の上昇を抑制する他、コリン、カルニチンも血漿ホモシステイン濃度の上昇を抑制するなど、このモデルを用いて、動脈硬化発症の危険因子であるホモシステイン上昇抑制作用をもつ物質を検索することが可能といえる。女子学生における新規二糖類の摂取効果研究も有。

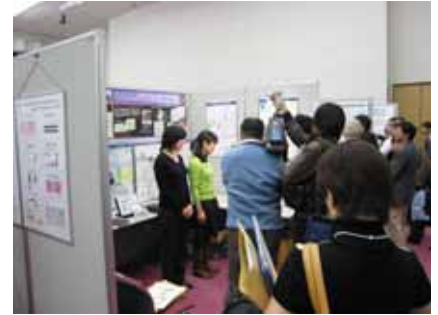
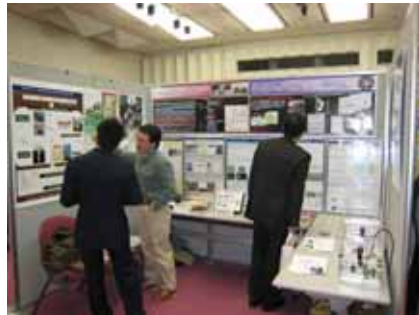
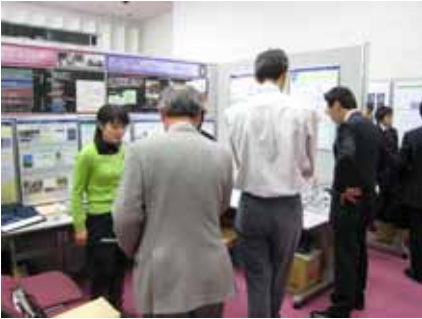


ブース来訪者に説明を行う大学院人間文化研究科 城教授 研究室学生

『近畿地域アグリビジネス創出フェア』に出展（12/5）

12月5日、グランキューブ大阪で開催された近畿地域アグリビジネスフェアに出展しました。本フェアは、近畿地域において、農林水産・食品産業分野における産学官連携を強化し、研究成果の事業化や技術移転、市場開拓などのビジネスチャンスの創出を促進するため、産業界、大学、独立行政法人及び行政機関等が一同に介し、農林水産・食品産業分野における研究から製品開発・商品化までの一連の動きに関する情報発信・交流の場を提供することなどを目的に、特定非営利活動法人近畿アグリハイテク・近畿農政局等が開催したものです。

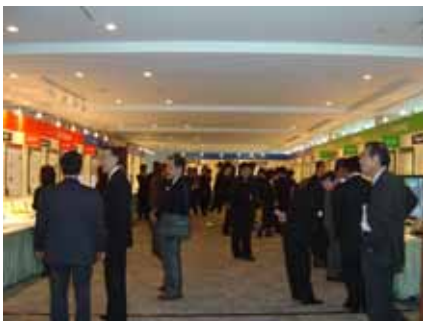
本学ブースでは、各種パネル展示、研究紹介（シーズ）集の配布に加え、稲を加害するスクミリングガイ（ジャンボタニシとも呼ばれる南米原産の淡水巻貝）の防除法として、実際にスクミリングガイとその天敵であるクサガメ（スクミリングガイを捕食する）の展示を行ないました（下記写真参照）。理学部生物科学科 遊佐助教授、佐藤助教授、鍵和田助教授、大学院人間文化研究科森田助手がブース来訪者の対応をし、パネル内容に加え、爽やかな学生対応が目をつけたのが、当日16時45分からのテレビ大阪ニュースで本学の展示の様子が放映されました。



『関西文化学術研究都市地域知的クラスター創成事業最終成果報告会』（12/6）

12月6日、グランヴィア京都で開催された関西文化学術研究都市地域知的クラスター創成事業の最終成果報告会で大学院人間文化研究科 坂本信幸教授の「万葉故地WEB散策案内システムの研究開発」についてのパネル展示とDVDデモ上映を行いました。関西文化学術研究都市地域知的クラスター創成事業は、京都、大阪、奈良に広がる関西文化学術研究都市「けいはんな」において、科学技術・産業基盤・文化資産等の多様な集積を活かし、産学官連携で新事業の創出をめざす文部科学省事業です。本学では平成17年度と18年度の2年間、プロジェクト8【関西文化資産とIT融合技術による新産業創出の研究】に携わってきました。

古き日本の風情、心情に心動かされる万葉歌。坂本プロジェクトでは、日本最古の道として知られる北は奈良市から南は桜井市までの「山辺の道」をたどりながら動画映像コンテンツを核とし、体感型WEB散策案内システムの構築を行います。このシステムでは、ハイビジョン動画映像や360度パノラマ写真映像と地図情報がリンクされるとともに、万葉時代の雰囲気や情景を擬似的に再現する3Dコンテンツ統合システムを搭載した従来の万葉故地解説システムにないリッチコンテンツを提供します。



4. 各種公募情報 < 2 >

公募情報についてはリアルタイムに
下記WEBにて随時公開中です。

<http://koto3.nara-wu.ac.jp/kenkyu/kakenjosei.html>

(財)吉田秀雄記念事業財団 H19年度研究助成

【公募時期】～平成19年1月10日(着)

【問い合わせ】<http://www.ikuei-yoshida.or.jp/yoshida/index.html>

【助成対象】マーケティング、特に広告に関連する分野の研究

A.助手以上の常勤研究者

B.博士後期課程在籍者

【助成金額】A:300万上限 / B:50万円上限

東京財団 H19年度政策研究プロジェクト公募

【公募時期】～平成19年1月5日(前期締め切り、必着) ～平成19年5月31日(後期締め切り、必着)

【問い合わせ】<http://www.tkfd.or.jp/contact/announce/kobo2007.shtml>

【助成対象】1.政治・行政、2.外交・安全保障、3.文化・文明、4.経済、5.その他 の分野

(財)河川環境管理財団 H19年度河川整備基金助成事業

【公募時期】～平成19年1月31日 消印有効

【問い合わせ】<http://www.kasen.or.jp/bosyu/bosyu.asp?bosyuid=100>

【助成対象】より良い川づくりに役立つ活動

A.指定課題助成 B.重点的助成 C.一般的助成

【助成金額】A,Bは3年以内、Cは1年

A,B.上限1,500万円(500万円/年)C.100～500万円

(財)三菱財団 H19年度研究助成

【問い合わせ】[tp://www.mitsubishi-zaidan.jp/](http://www.mitsubishi-zaidan.jp/)

【助成対象】A.自然科学研究助成

B.人文科学研究助成

C.社会福祉事業並びに研究助成

【学内締め切り】～平成18年12月28日(C)～平成19年1月19日(A)～平成19年1月12日(B)

(財)藤原科学財団 第48回藤原賞受賞候補者推薦

【公募時期】～平成19年1月31日(必着)

【助成対象】自然科学分野に属する基礎科学及び応用科学において科学技術の発展に卓越した貢献をされた方

【問い合わせ】[tp://www.fujizai.or.jp/J-p-jigyo.htm](http://www.fujizai.or.jp/J-p-jigyo.htm)

2007年度「ロレアル - ユネスコ女性科学者日本奨励賞」募集

【公募時期】～平成19年2月16日(消印有効)

【応募要件】生命科学、物質化学の分野において、博士後期課程に在籍あるいは進学予定の40歳未満(H19.2.16現在)の女性

【問い合わせ】http://www.nihon-loreal.co.jp/_ja/_jp/press-room/full_article.aspx?NewsID=2c7f68dd-9b88-46c1-841d-d496e0eff664

フジサンケイビジネスアイ先端技術大賞事務局 第21回先端技術大賞

【公募時期】～平成19年3月31日

【応募要件】2006年度に発表した研究開発成果(近い将来の実用化を見据えた技術論文、新製品など)

A.エレクトロニクス・情報 B.バイオ、生体・医療、医薬、食品 C.材料 D.環境・エネルギー E.一般工学(機械・土木など) F.ノンセクション

【応募対象】産学部門：研究者・グループ代表者の年齢が概ね40歳以下

学生部門：学生、大学院生、留学生も可

【問い合わせ】<http://www.business-i.jp/sentan/>

(財)茨城県科学技術振興財団 「第4回江崎玲於奈賞」募集

【学内締め切り】～平成19年2月14日

【応募要件】ナノサイエンスあるいはナノテクノロジーに関する研究に携わり、世界的に評価を受ける顕著な研究業績を挙げた研究者

【問い合わせ】<http://www.i-stop.org/prize/osaki/index.htm>

5. 奈良女子大学メールマガジン

現在、社会連携センターで出しております「奈良女子大学メールマガジン」は、この12月22日（金）配信で85号を迎えます（新年は1月12日からの配信です）。人気の「季節の写真便りコーナー」で紹介した写真は900枚を超えました。現在の読者数は約460名です。

広報的な記事がございましたら、e-magazine@cc.nara-wu.ac.jp 宛てにお知らせください。

また、e-magazine@cc.nara-wu.ac.jp 宛てにメールタイトルを「登録」として空メールを送信していただくと、登録させていただきます。研究室の学生さんなどにもご紹介してください。下の写真はメルマガで紹介しました最近の写真の抜粋です。



正門近辺の紅葉



第37回定期演奏会ギターマンドリン部



第51回NEWTON祭（理学部物理科学科）

6. 今後の予定

海外事例紹介

米国メリーランド大学 中島和生教授 講演会

「米国におけるベンチャー企業動向（仮題）」

平成2007年1月11日（木） 13:30 - 14:30

場所： 事務管理棟3階 第二会議室

2007年1月9日に複合現象科学専攻の学生による院生企画セミナー「連立1次方程式の新解法PSM (Partial Solution Method)」について中島和生教授より講演をいただく機会があり、本講演会は同教授の来日時間の中で設定されたものです。

主催：情報科学科 加古研究室 / 奈良女子大学社会連携センター

7. コーディネーターお勧め紙ファイル



ご存知ですか？学生さんの人気も高い全学仕様の紙ファイル。在庫減に伴い、新規にいろいろな色にて準備しました。学外用にご使用ください。

今年もお世話になりました、
よいお年をお迎えください。

